

令和 7 年 1 月 31 日

西本一葉

中国石家庄市語学研修 報告書

はじめに

10/22～12/27 の約 2 か月間、中国河北省の石家庄市に滞在し、語学学習や様々な文化体験をさせていただきました。石家庄市は人口 1000 万人以上の大都市で、首都北京からアクセスも良い地域です。

私は大学で中国語を学習し始めたことをきっかけに、実際に中国へ行ってみたいという思いを抱くようになりました。今回の研修では、本場の中国語に触れることで会話力の向上を目指すこと、メディアで見る中国とは異なる、本当の中国の姿を発見することを目指して過ごしました。実際に景色、食べ物、生活環境など、毎日あらゆるものが日本と異なり、中国での生活を楽しめたと同時に、多くの発見や学びを得ることができました。

研修内容

①語学学習

この 2 か月間、私たち研修生は石家庄市の河北師範大学に通い、他の留学生たちとともに中国語を学びました。私は中級 1 のクラスを選択し、口语(口語)、阅读(閲読)、精读(精読)、听力(リスニング)、写作(作文)の計 5 種類の授業を、週 10 コマ受講しました。普段、日本の大学では講義を聞きメモを取る形式が中心ですが、河北師範大学の授業では一人ひとりの発言の機会が多いことに驚きました。どの授業も、先生や他の留学生との会話を中心に行われるため、自分の苦手なリスニングとスピーキングの能力を高められる環境だと感じました。私は大学で 3 年間余り中国語を勉強してきましたが、実際に現地の中国語に触れると、話すスピードや癖、難しい単語などによって上手く聞き取れず、日常会話であってもリスニングに苦戦してしまいました。しかし、間違えながらも伝えようとする姿勢が大切だと身をもって感じたため、授業内でも日常生活でも、少しずつアウトプットしていくことを心掛けました。学んだことを活かして会話できた瞬間が、大きなモチベーションにつながったと思います。

②文化体験・芸術鑑賞

研修期間中、河北師範大学の先生方は、中国の文化や芸術、歴史などに触れる様々な

体験を用意してくださいました。その中でも特に印象に残っているのは中国茶の体験です。お茶の発祥の地である中国には、乌龙茶(ウーロン茶)や茉莉花茶(ジャスミン茶)など、数百種類ものお茶が存在します。今回は石家庄市にある茶館(中国茶を出す喫茶店)へ行き、お茶とお菓子を振る舞っていただきました。また、茶館の外では時代ごとに異なる中国茶の飲み比べをしました。解説を聞きながら、その場で淹れたお茶を実際に飲むことで、お茶の製法や淹れ方、味の特色が時代とともにどのように変化したかを知ることができました。紀元前 2700 年頃から始まった、中国茶の長い発展の歴史を学ぶことができ、とても面白かったです。



その他にも、中国の伝統工芸である泥塑(泥人形)や剪纸(切り絵)などの製作も体験しました。また、他の留学生とともにコンサートを鑑賞する機会もありました。中国の伝統楽器である二胡や古箏などの音色は、民族的な要素を含んでいてとても美しく、西洋発祥の楽器とは全く異なる魅力がありました。

このような様々な体験は、中国の伝統や文化について深く理解するきっかけとなり、どれも心に残っています。中国には、古くから数多くの魅力的な文化が存在しており、それらを大切にしながら発展を遂げてきた国だと感じました。

③国際交流

河北師範大学では、中国の学生や様々な国籍の留学生との出会いがありました。中国では WeChat(中国の主要なチャットアプリ)を交換し、気軽にメッセージを送り合う習慣があり、私も研修中に多くの中国人や留学生とやりとりをしました。

私が参加していたクラスにはインドネシア、タイ、ロシア、ペルーからの 6 人の留学生がおり、一緒に中国語を学びながら、互いの国について色々な話をしました。特に印象的だったのは、日本のサブカルチャーやグルメ、有名な観光地(京都や富士山)など、日本に興味を持つ人が想像以上に多くいたことです。クラスメイトの中にはアニメや漫

画、日本人のアーティストから日本語を学んでいる人も数人いました。日本に興味を持ち、日本を訪れたいと思う人が世界中にこれほど多くいるということも、一つの発見でした。

授業以外にも、大学での活動を通して様々な人と交流を深めることができました。その中でも、大学で行われた餃子作りのイベントが印象に残っています。中国は毎年12/21～12/23 頃に冬至を迎え、この日に餃子(中国では水餃子が一般的)を食べる風習があります。日本で冬至といえば、かぼちゃを食べる、ゆず湯に入るというイメージがありますが、それらは日本人にとって、それほどなじみのある行為ではありません。しかし中国では、冬至の日に非常に多くの人が餃子を食べており、冬至の風習が大切にされていることに驚きました。イベントでは中国の学生から作り方を教わりながら、グループに分かれて生地から餃子を作りました。私は同じグループのインドネシア人の学生たちとともに、餃子作りを楽しみました。生地から本場の餃子を作るという体験は日本ではなかなかできないため、とても貴重な体験だったと感じます。中国の冬至における重要な風習について理解を深められたと同時に、多くの学生と交流することができました。



このように、日常生活やイベントの中で多くの人と出会い、中国はもちろん、様々な国の言語や文化を知り、視野を広げることができました。また、中国語のみを使っている交流は難しい部分もありましたが、それ以上にとても楽しく、中国語を通じて多くの人と関わることがとても嬉しかったです。

④観光

この2か月間、河北師範大学の先生に案内していただき、中国の様々な観光地に足を運ぶことができました。

中国に来て初めての観光は、石家庄市の正定県での観光でした。正定には隋代以降の

建築物が多く残っており、趣ある歴史的な街並みを見ることができます。ここでは、中国の異文化体験として漢服を着たことが印象に残っています。漢服は中国の民族衣装で、時代ごとに色や柄、形状などが異なります。店では自分の好きな漢服を選ぶことができ、私は唐の時代のものを選び、衣装に合わせてヘアセットやメイクもしていただきました。漢服を着て正定の街を歩くことができ、とても楽しく貴重な経験となりました！



その他にも様々な観光地に連れて行っていただきましたが、その中でも印象深いのは、西安市で兵馬俑を見たことです。西安はかつて長安と呼ばれ、数々の王朝の都となっていた場所です。私たちが訪れた兵馬俑坑はとても壮大な世界遺産で、3つの俑坑では秦の始皇帝の絶大な権力が分かる、数多くの兵馬俑を間近で見ることができました。

兵馬俑の他に、北京の観光の際には世界遺産である故宮にも行くことができました。どちらの場所も自分の想像以上に規模が大きく、一目見ると中国の長い歴史を感じ取れるものでした。また、普段は石家庄市で生活していましたが、他の地域へ行くと街並みやグルメがまったく異なり、その地の特色を知ることができて面白かったです。



おわりに

この研修を通して、中国語力の向上とともに、中国の文化・芸術や生活などについて深く理解することができ、今まで知らなかった本当の中国の魅力を肌で感じることができました。その中で、中国の人々の気さくな性格や、困っているときにいつでも手を貸してくれる温かさを感じる場面が数多くあったことも、とても印象的です。

また、この研修中の人々との出会いは、かけがえのないものになりました。中国では旅立つ人を送り出す際に、“一路平安”や“一路顺风”という言葉がよく使われます。これらの言葉には相手の旅の無事を祈る意味が込められており、実際に私たちが帰国する際も、たくさんの中国人や留学生がこの言葉で送り出してくれました。この研修での多くの出会いを通して、国際交流の素晴らしさを知り、今後も様々な国の人々と関わっていきたく強く感じました。

私は来年度から社会人になり、接客業をする中で、中国語を使って日本や長野の魅力を多くの人に発信できる存在になれるよう努力していきたいと考えています。このような貴重な研修に参加させていただいたことに感謝し、今後さらに中国語学習に励みながら、仕事においても私生活においても日中交流の機会を大切に過ごしていきたいと思えます。